

一般社団法人日本森林学会 2015(平成27)年度事業報告

(1)「日本森林学会誌」の発行:2015年4月(第97巻第2号),6月(同3号),8月(同4号),10月(同5号),12月(同6号)および2016年2月(第98巻第1号)の年6回発行し,科学技術振興機構のJ-STAGEで公開した。論文22編,短報11編,総説2編,その他1編を掲載し,総計236ページとなった。ページ数は昨年度に比べて約30%減であった。和文誌の意義と方向性を明確化するために,日本森林学会誌のスコープを第454回理事会に提案し,承認された。第98巻第1号より,表紙写真を変更した。また,第98巻に掲載予定の特集企画案の募集を行った。

(2)「Journal of Forest Research」の発行:2015年4月(Vol. 20 No. 2),6月(No. 3),8月(No. 4),10月(No. 5),12月(No. 6)および2016年2月(Vol. 21 No. 1)の年6回発行した。特集“Science-Policy Interface and Traditional Knowledge in Social Ecological Production Landscapes and Seascapes (SEPLS)”を含めたOriginal Article 32編,Short Communication 4編を掲載した。総ページ数は332ページとなり,昨年度に比べて38%の減少であった。電子版の周知を図るため,メールマガジンを用いて会員に発行を知らせるとともに,日林誌と学会ウェブサイトで発表論文の日本語書誌情報を掲載した。Impact Factorは2013年の1.009から2014年の0.775になった。2014年の5-year Impact Factorは1.026であった。

(3)「森林科学」の発行:2015年6月(74号),10月(75号),2016年2月(76号)の年3回の発行をおこなった。特集「リモートセンシングでバイオマスを測る」「森林と流域」「樹木と森林(もり)の病気を科学する」をはじめ,シリーズ「森めぐり」「現場の要請を受けての研究」「うごく森」「森をはかる」「林業遺産」等,総計150ページの掲載を行った。

(4)「日本森林学会メールマガジン」の発行:第58号(2015年3月)～第69号(2016年2月)を発行した。

(5)ウェブサイトの更新:ウェブサイト更新を随時行い,最新情報を掲載した。大会や表彰をはじめとする各種の学会情報を会員に発信するとともに,学会刊行物などの学会活動について随時発信・広報した。大会発表申し込みおよび発表要旨集のオンライン入稿を支援した。大会ページの視認性・わかりやすさを高めた。その他,研究集会・シンポジウムや公募等の関連情報を提供・広報した。

(6)第126回日本森林学会大会の開催:北方森林学会の推薦により,北海道札幌市(北海道大学)で開催した(2015年3月26～29日;大会運営委員長:丸谷知己会員,北海道大)。研究発表は総計887件で,内訳は部門別口頭発表170件,部門別ポスター発表459件,公募セッション口頭発表101件,公募セッションポスター発表38件,企画シンポジウム口頭発表119件であった。高校生ポスター発表は24件であった。公開シンポジウム「森林づくりと生物多様性保全」を,国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」の助成を受けて開催した。「第126回日本森林学会学術講演集」を発行した。

(7)第127回日本森林学会大会の開催準備:関東森林学会の推薦により,神奈川県藤沢市(日本大学生物資源科学部)での開催を準備した(2016年3月27～30日;大会運営委員長:井上公基会員,日本大学)。2015年5月14日に大会運営委員会引継会議を実施した。研究発表は総計857件を予定して

おり、内訳は部門別口頭発表 171 件、部門別ポスター発表 472 件、公募セッション口頭発表 86 件、公募セッションポスター発表 35 件、企画シンポジウム口頭発表 93 件である。高校生ポスター発表は 31 校、38 件を予定している。公開シンポジウム「潤いのある都市をつくる森林」を企画した。学会企画として、和文論文の執筆、学振特別研究員の申請方法、森林・林業分野の職業情報提供の 3 つの催しの準備を進めた。

(8) 第 128 回日本森林学会大会の開催準備:九州森林学会の推薦に基づき、大会開催機関を鹿児島大学とし、大会運営委員長(曾根晃一会員、鹿児島大学)を委嘱し、大会運営委員会を組織した。

(9) 第 129 回日本森林学会大会の開催準備:応用森林学会に共催および大会開催機関の推薦を依頼した。

(10) 日本森林学会各賞の選考および日本農学賞等への推薦:日本森林学会賞は、石井 弘明会員(神戸大学)の「高木の樹高成長制限に関する生理生態学的研究」に、日本森林学会奨励賞は、飯島 勇人会員(山梨県森林総合研究所)の「Estimation of deer population dynamics by Bayesian state-space model with multiple abundance indices」、岩崎 健太会員(北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場)の「Contributions of bedrock groundwater to the upscaling of storm-runoff generation processes in weathered granitic headwater catchments」、平田 令子会員(宮崎大学)の「Growth recovery of young hinoki (*Chamaecyparis obtusa*) subsequent to late weeding」、南光 一樹会員(森林総合研究所)の「Physical interpretation of the difference in drop size distributions of leaf drips among tree species」に、日本森林学会学生奨励賞は、安宅 未央子会員(京都大学)の「In situ CO₂ efflux from leaf litter layer showed large temporal variation induced by rapid wetting and drying cycle」、池田 敬会員(北海道大学)の「Evaluation of camera trap surveys for estimation of sika deer herd composition」、久保 雄広会員(国立環境研究所)の「Spatial tradeoffs between residents' preferences for brown bear conservation and the mitigation of human-bear conflicts」、江原 誠会員(九州大学)の「REDD+ initiatives for safeguarding biodiversity and ecosystem services: harmonizing sets of standards for national application」に授与することを決定した。また、Journal of Forest Research 論文賞は、JFR 論文賞選考委員会が選考し、理事会で審議した結果、同誌 20 巻 1 号に掲載の Yoshiko Ayabe, Tetsuaki Minoura, Naoki Hijii「Plasticity in resource use by the leafminer moth *Phyllocnistis* sp. in response to variations in host plant resources over space and time」に、日本森林学会誌論文賞は、日林誌論文賞選考委員会が選考し、理事会で審議した結果、同誌 97 巻 1 号に掲載の梅村 光俊・金指 努・杉浦 佑樹・竹中 千里「福島県内のモウソウチク林における放射性セシウム分布」に、第 126 回日本森林学会大会学生ポスター賞は、ポスター賞選考委員会を選考し、理事会で審議した結果、16 名の学生会員に授与することを決定した。また、日本農学進歩賞について、会員からの推薦を受け付け、理事会で本学会推薦業績を決定した。日本農学会賞は、会員からの推薦がなく、本学会からの推薦は見送った。

(11) 学会活動の活性化:学生会員の拡大および学会事業の推進を図るため、ウェブサイトやメールマガジン等による広報活動、および連携学会・他学会・外部機関との連携強化を通じて、学会活動の活性化に努めた。本部から会長、副会長が各連携学会大会に、第 455 回理事会に連携学会長が出席するなど、

連携学会との協力を図った。

(12) 社会への広報活動:第 125 回および第 126 回日本森林学会大会におけるシンポジウムの記録の公開を検討した。

(13) 男女共同参画の取り組み:2015 年 10 月に、第 13 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム(千葉大学)に参加し、ポスター発表を行った。また、連絡会議の委員会への出席を通して、情報発信・情報収集を行った。特に、11 月に実施されるワークショップの周知活動を重点的に実施した。2015 年 11 月 29 日に、日本森林学会、日本木材学会、内閣府、男女共同参画推進連携会議の主催による「『木づかい』産業における男女共同参画推進による地域活性化—中部地域をモデルケースとしたワークショップ」を名古屋大学において開催した。

(14) JABEE(日本技術者教育認定機構)への協力:JAFEE(森林・自然環境技術者教育会)の基幹的な学会として、JABEE や JAFEE の活動・運営に協力し、関連学協会との連携を図り、森林分野の技術者教育の向上を進め、CPD(技術者継続教育)事業の推進に協力した。2015 年 5 月 28 日には、森林・林業人材育成のためのシンポジウムを開催し、森林・林業技術者教育の動向について発信するとともに JABEE の普及に努めた。

(15) 他学会との連携:各連携学会(北方森林学会、東北森林科学会、関東森林学会、中部森林学会、応用森林学会、九州森林学会)大会を共催し、役員の派遣を通じた交流を行った。「日本森林学会と日本木材学会との交流に関する覚書」に従い、木材学会理事を担当したほか、当学会大会には木材学会から 3 名の招聘を行うと共に、木材学会の招請を受けて、連携を強化した。第 127 回大会の木材学会大会との共催について協議を行ったが、日程と開催会場等の課題があり、実現しなかった。今後も共催可能な場合は検討を行う。また、運営委員・評議員の派遣等を通じて日本農学会の運営に協力した。

(16) 学術シンポジウム等の開催・広報:第 127 回日本森林学会における公開シンポジウムの準備を進めた。第 128 回日本森林学会大会(開催:鹿児島大学)に向けて、大会運営委員会においてテーマの検討を行い、「緑と水の森林ファンド」への応募準備を進めた。また、以下の5件の学術シンポジウム等の共催、後援、協賛、広報、その他 37 件の学術シンポジウムや研修会等の広報を通して、国内における学術活動に協力した。①公開シンポジウム「森林・林業人材の育成と大学・研究者に求められること」(2015 年 5 月)の主催 ②(社)日本流体力学会「日本流体力学会年会 2015」(2015 年 9 月)の協賛 ③国際ワークショップ:森林動態プロットの国際ネットワークによる森林生態研究の未来(2015 年 11 月)の後援 ④第 11 回バイオマス科学会議～『「地方創生」に資するバイオマス利活用とは何か』を幅広く議論～(2016 年 1 月)の協賛 ⑤森林総合研究所 REDD 研究開発センター国際セミナー「参照レベルから読み解く REDD+の未来」—2020 年以降の枠組みを見据えて—(2016 年 1 月)の後援

(17) 国際学術交流の推進:東アジアをはじめとする諸外国との国際的学術交流を進めた。

(18) 日本学術会議等への協力・連携:社会連携委員会は、当学会に関する情報発信および関連協会等への委員担当など、以下のように協力を進めた。①林野庁の「森林・林業基本計画の変更」に関する懇談

会に、理事および専門分野の学会員1名が出席した。②ウッドデザイン賞PRへの協力を目的として設置された「ウッドデザインサポート連絡会」の委員を選出した。③防災減災・災害復興に関連する学会の連携推進のための「防災学術連携体」に、委員として2名を選出した。④平成28年度の日本農学会シンポジウム「山と農学―「山の日」から考える」に話題候補を提案し、講演者が決定した。⑤日本学術会議の活動に、男女共同参画のシンポジウム開催等により協力した。

(19) 国内研究機関連携の推進: 国内研究機関間の研究情報交換の実態把握のために、森林学会の会員動向調査を続けた。

(20) 各種補助金の申請: 2015年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)「国際情報発信強化(B)」は不受理だった。公開シンポジウム「千葉県における里山保全活動について」(2016年10月)の助成のため、関東森林学会の発案により、日本森林学会として2016年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)「研究成果公开发表(B)」に応募した。またJFRの発信強化のため「国際情報発信強化(B)」に応募した。2016年3月に第127回大会で開催する予定の公開シンポジウム「潤いのある都市をつくる森林」については、2015年度国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」に応募し採択された。

(21) 他機関等からの賞、奨励金等の候補の推薦: 第6回(平成27年度)日本学術振興会育志賞に1名を学会推薦した。

(22) 学会運営の改善: 各委員会や役員間の連絡、学会本部・事務局から会員への連絡に電子メールを活用し、会議費と通信費を節減するとともに、意思決定や情報提供の迅速化に努めた。計9回の理事会のうち5回はメール理事会によった。代議員選挙および代議員選出理事・監事互選投票に電子投票システムを導入し、選挙事務費を大幅に節減した一方で、投票率は前回より向上した。

(23) 林業遺産の選定: 林業遺産候補の推薦公募を行った。その結果、計3件の応募があり、林業遺産選定委員会で審議・選定を行った。林業遺産選定体制の改革方針について検討した。

(24) 中等教育との連携: 事業計画に基づき、第126回日本森林学会大会において、高校生のポスター発表を実施した。全国から23校(25件)の申し込みがあり、盛況に終わった。それらの様子については、森林科学に中等教育連携推進委員会委員長が概要報告した。さらに、127回日本森林学会大会(日大)での開催をめざして、日本生物教育会、全国高等学校森林・林業教育研究協議会、これまでの参加校へのお知らせなど、様々なチャンネルを通じてPR活動を行った。また、127回には国土緑化推進機構「水と緑のファンド」の助成を受け、遠方からの参加校中心に旅費の援助ができることになった。

(25) 代議員及び理事・監事候補選挙: 2016年5月から2018年5月を任期とする代議員選挙(10月15日告示, 11月30日投票締切)、代議員選出理事・監事候補互選投票(12月18日告示, 1月15日投票締切)、会長・副会長候補互選会議(2月19日)を行った。代議員選挙と理事監事互選投票の投票率はそれぞれ40.7%, 82.0%であった。

(26) 一般社団法人としての対応: 大会担当理事の交代に伴い、理事を修正登記した。

(27) 会員数の動向:

種 別	2012/3/1	2013/3/1	2014/3/1	2015/3/1	2016/3/1	前期との差
正 会 員	2240	2219	2341	2443	2396	-47
国内一般会員	1819	1807	1793	1868	1822	-46
a) 日林誌のみ	1221	1218	1225	1297	1279	
b)+JFR	101	98	91	86	80	
c)+森林科学	241	233	216	222	209	
d)+両誌	256	258	261	263	254	
国内学生会員	402	386	525	561	563	+2
a) 日林誌のみ	344	331	481	527	523	
b)+JFR	12	11	6	2	3	
c)+森林科学	20	19	17	11	13	
d)+両誌	26	25	21	21	24	
海外在住一般会員	13	20	15	8	4	-4
a) 日林誌のみ	9	16	14	7	3	
b)+JFR	0	0	0	0	0	
c)+森林科学	0	1	0	0	0	
d)+両誌	4	3	1	1	1	
海外在住学生会員	6	6	8	6	7	+1
a) 日林誌のみ	2	1	3	3	3	
b)+JFR	4	5	5	3	4	
b)+森林科学	0	0	0	0	0	
d)+両誌	0	0	0	0	0	
機関会員	139	132	127	124	114	-10
国内機関	132	127	122	119	112	
海外機関	7	5	5	5	2	
賛助会員	44	40	42	40	39	-1
合 計	2423	2391	2510	2607	2549	-58
準 会 員	282	249	248	251	247	-4